

総合日本語コース報告 (2022年10月～2023年8月)

濱田 美和

1 はじめに

総合日本語コースは、日本語・日本文化研修留学生のために、2004年10月に開設した日本語プログラムである。富山大学の外国人留学生全体の中で、日本語・日本文化研修留学生の占める割合は低いため、本コースの授業科目はいずれも日本語課外補講上級および中級クラスとの合同授業として開講している。2005年9月に初めて本コースの修了生を送り出し、2022年10月に19期目の学生を迎えた。

以下、2022年度秋期(2022年10月～2023年2月)および春期(2023年4月～8月)の総合日本語コースの実施状況について報告する。

2 受講学生

2.1 日本語・日本文化研修留学生

「2022年度富山大学日本語・日本文化研修留学生プログラム」に参加した学生は5人で、秋期、春期ともに総合日本語コースを受講した。学生の出身国・地域はインドネシア、キルギス、ブラジル、ベトナム、メキシコ各1人で、所属は教育学部3人、人文学部2人だった。

総合日本語コースの授業科目として、2022年度は秋期に上級9科目と中級6科目、春期に上級8科目と中級7科目を提供した。総合日本語コースの授業科目は必修科目ではないが、本学の日本語・日本文化研修留学生プログラムの修了要件の一つとして、学部や教養教育の授業科目および総合日本語コースの授業科目の中から各期週8コマ以上の履修が義務づけられている。2022年度の日本語・日本文化研修留学生の総合日本語コースの受講状況は13科目(秋期7, 春期6)2人、(秋期6, 春期7)1人、10科目(秋期4, 春期6)1人、9科目(秋期6, 春期3)が1人だった。

2.2 協定校からの短期留学生

総合日本語コースは、日本語・日本文化研修留学生のために開設した日本語プログラムであるが、2006年10月より、本学との学術交流協定に基づく短期留学生も総合日本語コースに参加可能となり、中級レベル以上の日本語力を有する短期留学生は総合日本語コースを受講している。短期留学生については、留学期間が1年の学生が大半であるが、一部半年の学生がいること、また、留学期間が1年の学生についても秋期、春期のいずれかの期のみを受講する学生もいることから、期ごとに受講状況を述べる。

受講者数については、秋期は13人で、出身国・地域別の内訳は中国4人、韓国4人、台湾2人、フランス、ベトナム、ロシア各1人、所属別の内訳は人文学部6人、経済学部5人、教育学部、人文科学研究科各1人だった。春期は8人で、出身国・地域別の内訳は台湾3人、韓国2人、アメリカ、中国、ベトナムが各1人、所属別の内訳は人文学部が4人、経済学部2人、教育学部、都市デザイン学部各1人だった。

履修科目数については、秋期は6科目1人、5科目3人、4科目3人、3科目2人、2科目1人、1科目3人、春期は6科目2人、5科目2人、3科目1人、2科目1人、1科目2人だった。

3 担当者

秋期は専任教員2人(田中信之、濱田美和)、および、非常勤講師6人(高島智美、田上栄子、中野香保里、藤田佐和子、水田佳歩、要門美規)、春期は専任教員2人(田中信之、濱田美和)、および、非常勤講

師 5 人（高島智美, 中河和子, 永山香織, 水田佳歩, 要門美規）が授業を担当した。専任教員の濱田がコースのコーディネーターをおこなった。

4 スケジュール

秋期は、2022 年 10 月 3 日（月）～2023 年 2 月 1 日（水）を授業期間とし、12 月 27 日（火）～1 月 4 日（水）は冬季休業、1 月 13 日（金）は大学入学共通テスト準備日のため、休講とした。また、曜日調整のため、11 月 22 日（火）は水曜日の授業をおこない、11 月 30 日（水）は予備・調整日とした。春期は 2023 年 4 月 13 日（木）～8 月 2 日（水）を授業期間とし、曜日調整のため、5 月 1 日（月）は水曜日の授業、7 月 19 日（水）は月曜日の授業をおこない、6 月 13 日（火）は予備・調整日とした。

学期ごとにコーディネーターがオリエンテーションをおこなった。実施日は、秋期は 2022 年 9 月 29 日（木）、春期は 2023 年 4 月 11 日（火）である。オリエンテーションでは各授業科目の詳細（授業概要は国際機構ホームページ上に掲載、日本語と英語での閲覧が可能）について説明をおこなった。春期のオリエンテーションでは履修の際の参考となるよう、秋期の学業成績通知書を学生に渡している。履修登録は授業開始後 2 週間以内におこない、履修登録を行った授業科目について学期終了時に成績を出すシステムとしている。

5 授業内容

総合日本語コースは、上級および中級レベルの日本語課外補講の授業と合同で授業を行っているが、日本語課外補講は成績評価が必要でないため、授業科目によっては必要に応じ、総合日本語コースの受講者だけに別課題や試験を課すなどの方法を取っている。科目別の授業概要は表 1 の通りである。科目名に C のついた授業は上級レベル、B のついた授業は中級レベルである。多くの科目が秋期と春期で同一の授業概要（目的）となっているが、上級レベルの授業については、秋期に履修した科目を春期に続けて履修できるように、授業で取り上げるトピックやタスクの内容は期ごとに変えている。

表 1 総合日本語コース授業概要（2022 年 10 月～2023 年 8 月）

| 授業科目名 (開講曜日)[担当] | 授業概要 |
|--------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 秋期：読解 C2a (火 3)[田中] 春期：読解 C1 (水 2)[田中] | 大学での研究活動に必要な専門書、論文の読解能力の養成を目指して、様々な話題に関する文章を読み、仲間との対話を通して内容の理解を深める。さらに、新聞・雑誌記事や教養書を要約し、その内容をグループで討論することによって、批判的思考力を身につける。秋期は『協働で学ぶクリティカル・リーディング』（ひつじ書房）、春期は『日本語力をつける文章読本 知的探検の新書 30 冊』（東京大学出版会）を主教材として使用する。 |
| 秋期：読解 C2b (火 4)[藤田] | 文章全体の意味を捉えたり、文章の細かい部分を読み取る練習をすることにより、大学での学習や研究に必要な日本語の基本的な読解能力と日本語能力試験に合格するために役立つ力を身につける。『新完全マスター読解 日本語能力試験 N1』（スリーエーネットワーク）を主教材として使用する。 |
| 秋期：文法 C2a (木 1)[濱田], 文法 C2b (木 2)[濱田] 春期：文法 C1a (火 1)[濱田], 文法 C1b (木 2)[濱田] | 大学での学習、研究に必要な上級の文法・表現を整理し、多くの練習問題を解きながら習得する。日本語能力試験受験対策も行う。文法 C2a は『TRY！日本語能力試験 N2 文法から伸ばす日本語 改訂版』（アスク出版）、文法 C2b では『TRY！日本語能力試験 N1 文法から伸ばす日本語 改訂版』（アスク出版）、文法 C2a では『新完全マスター文法 日本語能力試験 N2』（スリーエーネットワーク）、文法 C1b では『新完全マスター文法 日本語能力試験 N1』（スリーエーネットワーク）を主教材として使用する。 |
| 秋期：作文 C2 (月 3)[田上] | 論理的な文章を書くために必要な構成、表現、文法の基本を学び、学習した項目を用いてまとまった文章を書くことで、レポートや論文を書くための基礎力をつける。 |

| | |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 秋期：聴解 C2 (木3)[要門] 春期：聴解 C1 (火3)[要門] | 大学で講義を聞いたり、演習や研究会に参加したりする際に必要な聴解力や、日常生活に必要な聴解力を身につけるために、様々な種類の聴解練習を行う。日本語の聴解教材とあわせて、テレビやラジオ、インターネットなど、様々なメディアを用いた練習を行う。 |
| 秋期：会話 C2 (水2)[高島] 春期：会話 C1 (月4)[永山] | ロールプレイ等での会話練習を通して、大学生活や日常生活で出会う場面や状況での会話力を伸ばす。また、人や物、経験など様々なトピックについて日本語で的確に説明・描写する力、意見や感想を述べる力を養う。 |
| 秋期：漢字 C2 (月4)[濱田] 春期：漢字 C1 (月3)[濱田] | 日常生活や大学の講義で用いられている漢字・漢字語の意味を理解し、正しく読み、書き、使う力を身につける。『INTERMEDIATE KANJI BOOK 漢字 1000PLUS』 Vol.2 (凡人社) を主教材として使用する。 |
| 春期：表現技術 C1 (月2)[濱田] | 目上の人や初対面の人とやりとりする、あるいは、不特定多数の人に対して情報発信する際に必要となる、フォーマルな場で用いられる日本語の表現、日常的・実用的な文章の書き方、日本語での口頭発表のスキルを習得する。 |
| 秋期：日本文化 C2 (水3) [田上] 春期：日本文化 C1 (水4) [中河] | 留学生として日本社会を分析する試み(情報の読み取り、整理など)をTV番組、新聞・雑誌記事、自治体広報などの様々なメディアを用いてする。日本社会を読み解くための身の回りのリソースを活用する手だてを与え、そこから得たものを日本語で発信する力を養成する。 |
| 秋期：文法・表現B2a (月1・2) [中野], 文法・表現B2b (水1・2) [田上] 春期：文法・表現B1 (木1・2) [中河] | 指定されたトピックについて自分の力で話を組み立てていくことを通して、大学生活・日常生活に必要な中級の日本語能力を身につける。『ジェイ・ブリッジ』(凡人社) を主教材として使用する。 |
| 秋期：文法・読解B2a (火1・2) [中野], 文法・読解B2b (木1・2) [要門] 春期：文法・読解B1a (月1・2) [要門], 文法・読解B1b (金1・2) [高島] | 様々なトピックの読み物を日本語学習の教材とし、大学での学習や研究に必要な日本語の言語能力の基礎力をつけ、同時にトピックの内容などを通して考える力を養成する。文法・読解 B2a と文法・読解 B2b では『日本語中級 J 301』、『日本語中級 J 501』(スリーエーネットワーク)、文法・読解 B1a では『新 中級から上級への日本語』(ジャパントイムズ)、文法・読解 B1b では『話す・書くにつながる! 日本語読解 中上級』(アルク) を主教材として使用する。 |
| 春期：文法 B1 (月3・水3) [永山・田中] | 初級の文法を復習しながら様々なトピックの読み物を読み、中級への足がかりとなる文法を学ぶ。また、大学での学習や研究に必要な考えをまとめる力を養うために、各トピックについての作文課題などを通して書く力を養成する。『中級へ行こう』(スリーエーネットワーク) を主教材として使用する。 |
| 春期：作文 B1 (木3) [田中] | 自分の考えを根拠を挙げて筋道立てて書けるようになること、また、協働的な活動を通して自律的な書き手となることを目指して、作文の基礎を学んだあと、意見文、要約文、説明文を書く練習を行う。 |
| 秋期：聴解・会話 B2 (火3) [水田] 春期：聴解・会話 B1 (火3) [水田] | 生教材を視聴・分析・まねることや、発表、ディスカッションを通して状況や目的に合った適切な表現を中心に学ぶ。初級レベルの文法を復習しながら、中級レベルの文法を会話の中で使う練習をする。 |
| 秋期：漢字 B2 (月3) [濱田] 春期：漢字 B1 (火2) [濱田] | 日常生活や大学の講義で用いられている漢字・漢字語の意味を理解し、正しく読み、書き、使う力を身につける。『INTERMEDIATE KANJI BOOK 漢字 1000PLUS』 Vol.1 (凡人社) を主教材として使用する。 |

*1限8：45～10：15, 2限10：30～12：00, 3限13：00～14：30, 4限14：45～16：15

*週1コマ(上級レベルの全科目、聴解・会話B2・B1, 作文B1, 漢字B2・B1)あるいは週2コマ(文法・表現B2a・B2b・B1, 文法・読解B2a・B2b・B1a・B1b, 文法B1)の授業を15週行っている。1コマ90分。

なお、学生による授業評価アンケートは、日本語課外補講上級および中級クラスとまとめて実施した。授業評価アンケートの結果については、日本語プログラム授業アンケートを参照いただきたい。

6 成績評価

成績評価の方法については、成績評価の基準を授業概要に明記するとともに、オリエンテーションでも説明している。この基準をもとに授業担当者が、秀（90点以上）、優（80点～89点）、良（70点～79点）、可（60点～69点）、不可（59点以下）で判定を行うが、総合日本語コースの授業科目については単位が出ないことになっている。成績を記した履修証明書の発行を国際機構長名で行っている。

7 学生からの評価

前述の通り、各授業科目に関する授業評価アンケートは日本語課外補講とまとめて実施し、これ以外に、総合日本語コース全体についてはインタビューを行った。2022年度の結果を表2（実施日：2023年1月30日（月）～2月1日（水）、7月27日（木）～8月3日（木）、調査対象：日本語・日本文化研修留学生5人、協定校からの短期留学生14人）に示す。

表2 総合日本語コース（2022年10月～2023年8月）インタビュー結果

| | |
|---------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1. 総合日本語コース：科目について | <ul style="list-style-type: none"> ・ 十分だった。(10人) ・ 十分だった。いろいろな方面が全部ある。 ・ ちょうどよかったと思う。日本語だけ勉強していたから。ここに来て日本語を集中するために来たから。 ・ 十分だったが、秋期の日本文化Cの内容がシラバスと違っていた。 ・ 一般的に十分だと思うが、音声や発音に関する科目があるのもっといいと思う。また、今ある科目の中に発音の練習があるといいと思う。 ・ 十分だったが、できれば専門の古文のことはや古典も勉強できるとうれしい。 ・ 語彙をもっと勉強したい。各テーマの語彙、たとえば性格や経済の語彙など。 ・ 専門のことはや若者ことばも勉強したい。 ・ 友だちと話すときはため口なので実生活で使える言葉を勉強すると、もっと覚えやすくなると思う。 ・ 読解Cのようなアクティブラーニングの授業がもっとあったらいい。 |
| 2. 総合日本語コース：レベルについて | <ul style="list-style-type: none"> ・ ちょうどいいと思う。(5人) ・ ちょうどいいと思う。本当にちょうどいい。 ・ ぼくのレベルに科目のレベルは合っていると思う。簡単すぎるとか難しすぎるとは言えない。 ・ 実は中級クラスを取りたかったが、学部の先生から上級クラスを勧められて、上級クラスを選んだ。力がついたのでよかったと思う。 ・ 上級クラスは難しいけど、母国の先生からも中級クラスを勧められたけど、挑戦したくて上級クラスを選んだ。上級クラスにしてよかったと思う。 ・ 1番高いレベルの授業は難しいけど、それぐらいは大丈夫だと思う。中級はちょうどいいと思う。 ・ 上級だったら基本のレベルが少し高い感じ。中級は余裕だった。みんなと受けて楽しかった。 ・ 中級はちょっと簡単だと思った。上級はちょうどいいと思った。プレゼンテーションの授業は私にとって少しだけつらいと思うけど、他のは大丈夫だと思う。 ・ 思ったより難しかったけど、能力試験を受けたときに役立ったのでそれはそれで大丈夫だった。 ・ N1の文法Cは難しかったが、他はOKだった。 ・ 秋期は難しすぎたが、今は中級レベルはちょうどいい。 ・ 易しすぎた。 ・ もっと難しいほうがいい。 ・ 火曜日に中級を受けたけど、それはちょっと簡単でそれ以外は十分だと思う。 ・ 十分だと思う。私より上手な人にはちょっと足りないかなと思う。 |
| 3. 科目選択の際に重視したこと | <ul style="list-style-type: none"> ・ 勉強したい科目を取った。 ・ 自分が勉強したい知識についての科目を選んだ。 ・ 勉強したい科目を選んだ。最初JLPTのために文法や聴解を選んだ。 ・ 勉強したい科目を選んだが、秋期の作文Cは専門と重なって取れなかった。春期は上級の作文がなかった。 ・ 自分が学べることがある科目、自分の日本語能力に合った科目を取った。 ・ 勉強したい科目。そして、専門の授業があるので、日本語の授業が多くなりすぎないように、週2コマの授業は1つだけ選んだ。 |

| | |
|------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| | <ul style="list-style-type: none"> ・ 帰国した後、すぐ卒業するので、卒業論文に役立つ授業を選んだ。固い表現を勉強できる授業。そして、日本での日本語能力を伸ばすために会話や聴解を選んだ。 ・ 自分の日本語能力の弱点を考えて選んだ。 ・ 私の弱いところを補足したい。その中で自分のスケジュールに合わせられるかどうか。専門の授業との関係。 ・ 1番の基準は、私のスケジュールに合わせることだった。そして、私の弱いところ、文法とか漢字とか書くのが弱かったから、それを選んだ。 ・ まず時間、次に先生、そしてこれが1番大切だが、自分に足りない部分を選んで、文法と聴解を取った。 ・ 専門の授業を選んだあとに、総合日本語コースの授業を選んだ。自分の聴解能力に自信があったから、聴解は選ばなかった。あとは時間割を見て決めた。 ・ 専門の授業が1番なので、2番目の基準は聞きたい授業だった。 ・ 専門の授業が1番で、だから専門の授業のせいで聞きたかった授業が聞けなかった。 ・ 日研生なので全部取った。 ・ あまり理由はない。実は上級レベルは難しすぎると思う。初級レベルは易しすぎるから、中級を全部選んだ。 ・ 金曜日と月曜日は休めるように選んだ。 ・ 友だちに誘われて、友だちと一緒にのほうが楽しいので選んだ。 ・ 時間以外に、先生、そして日本人と一緒に授業を選んだ。春期に日本人と一緒に授業を3つ選んだけど、多すぎた。授業中の日本人との交流も難しかった。最初に1つ、次の学期に2つ、というように少しずつ増やしたほうがいいと思った。 |
| <p>4. 自身の日本語力について</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・ かなり伸びた。全部伸びた。 ・ 大進歩した。全部。本当に全部。 ・ 全部アップした。前より日本語も理解できるし、会話もできるようになった。 ・ はい、たくさん。日本に来る前に、ぜんぜん話せなかった。本当にちょっとだけ。今日本人と話せるようになった。だいたい人の話がわかる。 ・ 伸びたと思う。国ではこんなに日本語を話す機会がなかったので、ここに来て私は生活ができるようになったと思う。 ・ 結構日本語能力が伸びた。特に話すスピードとか、会話する力が身についたと思う。そして、最後にもっと自然な日本語が使えるようになった。あいつちをどうやって使うかがわかるようになった。 ・ 最初よりもっといいと思う。聞くのは国にいたころからよく日本語を聞いたのであまり変わらないけど、話すのはここに来てうまくなった。 ・ 伸びた。会話。そして、JLPTのためにあまり勉強しなかったけれど、試験を受けたら思ったより簡単に感じた。1年留学生したからだと思った。 ・ 伸びた。すごく伸びた。最初日本に来るとき、日本語が自信がなくて、最初あまりみんなと話さなかった。前学期の授業を受けて、めっちゃ伸びた。今は間違えても大丈夫だと思う。ちゃんと自分の意見を伝えれば大丈夫だと思う。 ・ もちろん。留学前は自分の日本語力が低いと思って、先生に質問する勇気がなかった。ここでみんなが全部日本語を使っている、もしわからないところがあって、聞かなかつたら、全然日本語を伸ばせないの、いっぱい質問して能力を伸ばせた感じ。 ・ 日本に着いた最初に比べて十分に伸びたと思う。聞き取れるとか、会話も最初よりできたので。 ・ 伸びた。読む以外は絶対に伸びた。伸びたと思う。 ・ 直接に感じるときはあまりないけど、周りの日本人の友だちに上手になったと言われてそう思うことがある。最初発表が難しいと思ったけど、今は専攻の発表もうまくいったと思う。 ・ 伸びた。特に会話と聴解。 ・ 伸びた。特に聴解。 ・ 伸びた。特に聴解と会話。 ・ 伸びた。特に聴解と読解。 ・ 伸びた。特に漢字と語彙力。 ・ 伸びた。特にコンテキストで同じ表現の使い分けがわかるようになった。 |
| <p>5. 富山での留学生活について</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・ すばらしい。みんなと別れたくない。 ・ 楽しかった。喜びも悲しいこともあるけど、喜びのほうが多かった。 ・ 幸せだった。学生だけじゃなくて、大学が学生のためにいろいろ準備してくれたから。1番よかったのは立山。他の学生も立山に行ったのはとてもよかったと言っている。 ・ 楽しかった。総合日本語コースで友だちもできて、授業も母国に比べると難しくなかった。 ・ いいことがいっぱいあった。そして、富山は日本語の会話の機会が多い。大きい町に行ったら英語が話せる人がいるので、日本語を使わないかもしれない。 |

| | |
|--|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| | <ul style="list-style-type: none"> ・ めちゃくちゃいい。幸せ。おもしろかった。いろんな人が温かくて、おじいさん、おばあさんと話したのもよかった。都市は人が多すぎて、中国語で話す人がたくさんいるので日本語の練習にならない。富山はちょうどいい。 ・ 最初は東京に行きたかったけど、富山に来て、空気がきれいだし、景色もきれいだし、今は人が多くない富山のほうがいいと思う。 ・ うれしかった。すばらしかった。最初はきらいかもしれないと思ったけど、来てから会館のみんなもめっちゃ優しいから生活もおもしろかった。 ・ 私は都会に住んでいたから、ここの生活がちょっと不便だけど、最初からここを私が愛するようになって、本当にそうだった。本当にここの生活がよかった。会館の友だちもよかったし、珍しい経験になると思う。 ・ 本当によかった。最初は正直田舎だと思って、ここで大丈夫かなと思ったけど、特に寮での生活が特に日本語で話す機会も多かったのでおもしろかった。 ・ 楽しかった。最初来たときは、田舎で心配になったが、問題なかった。残念だったのは、秋期はコロナで、日本人学生と飲みに行ったりできなくて、留学生の友だちはできたけど、日本人の友だちができなかった。でも、春期は日本人とも交流がたくさんできてよかった。 ・ 秋期はコロナでサークルにも入れなくてあまり日本人と交流できなかったが、交流すると、日本人が優しいこと、日本人も留学生と話したいことがわかった。富山大学は北陸や関西からも来ていて、あちこちの方言も聞けてよかった。 ・ 本当によかった。寮でいろんな国から人と一緒に住むのはいい経験。富山はいいところ。景色がきれい。海と山が見えて。ただ、ちょっと静かすぎるのが残念だった。でも、大丈夫。 ・ 楽しかった。でも、寮が大学から遠くて、交通機関も難しい。バスが1時間に2本しかなくて、寮の近くにスーパーがない。 ・ 正直に言うと、交通が不便。自転車がなければ大変だと思う。国際交流会館でみんな一緒に住んでいて、異なる文化に触れてとてもうれしい。 ・ 意外と楽しいこともあったけど、意外と大変なこともあった。寮が大学から遠すぎて、学校へ行くときも、学校から帰るときも向かい風でつらかった。 ・ 一般的に全部よかったと思った。国際交流会館の生活も富山の生活も。でも、冬はちょっと寒いか問題じゃないけど、道はぐちゃぐちゃしているので、歩きづらい。 ・ 全体的によかったと思う。冬の富山はちょっと天気が悪かったけど、でもよかった。 ・ 天気を除いて、全部すばらしかった。 |
|--|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

まず、コースの開講科目数については多くの学生が十分だったという回答だったが、語彙の学習、発音の練習、若者言葉や古文をもっと学びたいという意見、学生同士の対話活動を中心とした授業を増やしてほしいという意見もあった。

次に、コースのレベルについては全体的にはちょうどよかったという回答が多かったが、一方で、難しかった、易しかったという声も複数聞かれた。

科目選択の際に重視した点としては、勉強したい科目、自分の弱点を補える科目、自身のレベルに合った科目というように、自身の日本語力や興味に合わせて科目を選んでいる学生が多かった。また、1番に専門の授業を決めてそれから日本語の時間割を決めた、また、休日前後の金曜日と月曜日は空けるように時間割を組んだというように、開講曜限も挙げる学生も複数見られた。

自身の日本語能力については、全員が伸びたと答え、特に話す力を上げる学生が多かった。

最後に、富山での留学生活については、全員がよかった、楽しかったという回答だった。留学生同士の交流、日本人学生や地域の人たちとの交流ができたことをその理由として挙げる学生が多かった。最初は都会に行きたかったけれども富山に住んでみると、日本語を話す機会が多く景色も美しく富山に来てよかったといった意見も複数の学生から聞かれ、富山での留学生活に満足している様子が見られた。ただ、国際交流会館から大学までの交通が不便なため、天気の悪い日の通学が大変だったという不満の声も複数寄せられた。

8 おわりに

第19期はすべて対面授業となり、また春期からはコロナ禍における行動制限も緩和され、日本人学生とも交流しやすい環境になった。インタビュー結果からも、本学への留学によって会話力を中心に

日本語力を伸ばすことができたこと、友人ができたことに満足している様子うかがわれた。一方で、第19期は第18期よりも総合日本語コースの受講者が増えたことによって、中級、上級、いずれのクラスも習熟度の個人差も広がった。受講者間の習熟度の開きへの対応が課題である。今後も学生の日本語力やニーズの把握に努めながら、よりよいコース提供の在り方を探っていきたい。